2026年国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）閣僚級会合ステートメント（仮訳）
（７月14日（火））

議長、御列席の皆さま、

国際社会は、複合的危機に直面しているからこそ、あらゆるアクターの一層強固な連携が不可欠です。今回のHLPFのテーマは、まさに時宜を得たものです。

SDGsが採択された2015年、私は医療行政に関わる中で、「2030年、子どもたちにどのような世界を残せるか」を問うていました。当時は遠い未来だった2030年も、今や残り4年です。来年のSDGサミットでは、2030 年以降の持続可能性に関する本格的な議論を開始します。

議長、

現行SDGｓを推進し、2030年以降の持続可能性に関する議論を進めため、今こそ全てのアクターの叡智を結集すべきです。日本は三つの柱で取り組みます。

第一に、社会課題の解決を成長の原動力へと転換していきます。AI を含む様々な分野のイノベーショ

ンを活用することで、日本は社会課題の解決を通じた持続的な成長を実現します。

第二に、「誰一人取り残さない」包摂的な社会の実現を目指します。「人間の安全保障」の理念の下、全ての人々のウェルビーイングの向上を図ります。

第三に、課題先進国としての知見の共有と共創の促進です。日本は昨年のVNRでも、少子高齢化や防災といった課題に対する取組を強調しました。日本が積み重ねてきた知見を世界と共有し、革新的な解決策を共に創ります。

議長、

地球規模の課題の解決には、多国間連携が不可欠です。本年国連システム幹部会（CEB）が東京で開催された際、高市総理は多国間主義への揺るぎないコミットメントを表明しました。

持続可能な社会の実現には、多様なステークホルダーの連携が不可欠です。2025年大阪・関西万博に続き、来年3月には「幸せを創る明日の風景」をテーマにGREEN×EXPO 2027が開幕します。こうした機会を最大限に活用し、多様なステークホルダーとのパートナーシップを一層強化していきます。

日本は、SDGs の実施を推進するとともに、2030 年以降を見据えた議論にも貢献すべく、あらゆる機会を捉えて国際社会との連携を深めてまいります。

ありがとうございました。